



2016年度第2四半期 決算説明資料

2016年10月31日

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



2016年度第2四半期決算の概要について説明します。

I. 2016年度第2四半期決算実績

・サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9-10

II. 2016年度業績見通し

・業績見通しサマリー	12
・セグメント別内訳	13
・期首からの営業利益の推移	14

III. 補足資料

補足資料	16-21
------	-------

I . 2016年度第2四半期決算実績

第2四半期決算実績 サマリー

(単位: 億円)

	'15-2Q累計 (利益率)	'16-2Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	17,844	16,644	△ 1,199 (△ 6.7%)
売 上 高	18,820	17,505	△ 1,315 (△ 7.0%)
営 業 利 益	(6.2%) 1,159	(2.2%) 384	△ 775 (△ 66.9%)
経 常 利 益	(5.9%) 1,118	(△0.1%) △ 18	△ 1,137 -
特 別 損 益	△ 328	△ 127	+200 -
親会社株主に帰属する 当期純利益	(2.3%) 433	(△1.1%) △ 189	△ 623 -
EBITDA	(10.5%) 1,971	(7.2%) 1,263	△ 708 (△ 35.9%)

以下の営業外費用を含む

- ・為替差損 △118
- ・持分法投資損失 △203
- (三菱自動車工業株 △188 他)

'16-2Q累計特別損益
(△127)の内訳

【特別利益】

・投資有価証券売却益 37

【特別損失】

・客船事業関連損失 △164

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、前年同期から1,199億円減少し、1兆6,644億円となりました。

売上高は、前年同期から1,315億円減少し、1兆7,505億円となりました。減少の主な理由は為替影響ですが、加えて売上高の計上遅れの傾向が見られました。当社の事業特性上、受注が売上に転じるまで平均して約1.5年から2年ぐらいの時間がかかりますが、その売上計上時期が後倒れになっているためです。

営業利益は、前年同期から大幅に減少し、384億円となりました。主な理由として、売上高の減少、M&Aによる販売費及び一般管理費の増加、為替影響、一部事業におけるコスト悪化等が挙げられます。

経常利益は、前年同期から1,137億円減少のマイナス18億円となりました。これは営業利益の減少に加え、主に為替差損と持分法投資損失によるものです。持分法投資損失については、三菱自動車工業株の第1四半期決算を持分連結したことによるものです。なお、三菱自動車工業株は第1四半期末で持分法適用会社から外れたため、第2四半期(単期)決算以降の業績影響はありません。

特別損益は、マイナス127億円となりました。主な内訳は、投資有価証券売却益37億円と、客船事業関連損失164億円です。

今回計上した客船事業に係る損失は建造中の2番船に関するものですが、その内訳は以下の通りです。

まず、円高によるユーロ建収入の目減り分が、約70億円含まれます。

次に、品質及び工程を確保する為に、2番船において一部のパートナーを変更したことによる追加コスト相当分が、約40億円含まれます。

残りは、現在就航中の1番船で判明した課題を2番船へ水平展開した費用や、客船の建造拠点である長崎市で発生した大雨にともなう浸水による建造工程への影響などです。

客船の工事そのものは、混乱も起こっておらず、社内計画に対して比較的順調に進んでいます。私自身が見る限り、計画された建造工程に対してやや前倒しで進んでいると考えています。顧客ともきちんとコミュニケーションを取っており、顧客と相談をしながら2番船の納期を検討しています。

これらを踏まえ、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、純利益）は、前年同期から623億円減少のマイナス189億円となりました。

EBITDAについても、営業利益の減少により、前年同期から708億円減少の1,263億円となりました。

第2四半期決算実績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営 業 利 益		
	'15-2Q 累計	'16-2Q 累計	増減	'15-2Q 累計	'16-2Q 累計	増減	'15-2Q 累計	'16-2Q 累計	増減
エネルギー・環境	6,119	5,716	△ 403	6,811	6,531	△ 280	377	285	△ 91
交通・輸送	2,923	2,377	△ 546	2,800	2,443	△ 357	330	△ 180	△ 510
防衛・宇宙	1,438	1,366	△ 72	2,050	1,848	△ 201	114	91	△ 23
機械・設備システム (※)	7,289	7,115	△ 173	7,045	6,607	△ 438	358	229	△ 129
その他 (※)	797	719	△ 77	758	785	+27	46	37	△ 8
消去または共通	△ 724	△ 650	+73	△ 646	△ 710	△ 64	△ 66	△ 78	△ 11
合計	17,844	16,644	△ 1,199	18,820	17,505	△ 1,315	1,159	384	△ 775

(※)【報告セグメントの変更について】

2015年度第3四半期より、一部の事業のセグメントを「その他」から「機械・設備システム」に変更したことに伴い、
2015年度第2四半期累計の実績を、変更後のセグメントに合わせて組み替え。

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

セグメント別の状況について説明します。

受注高・売上高とも、4つの事業セグメントで前年同期を下回りました。

営業利益は、特に交通・輸送セグメントが前年同期から大きく減少し、マイナス180億円となりました。その主な要因は以下の通りです。

まずは、為替影響です。同セグメントは、商船やTier1(民間航空機)等、為替の影響を強く受ける事業を抱えているためです。

次に、Tier1(民間航空機)事業の悪化です。

まずカナダのボンバルディア社向け機種や米国のボーイング社向け777型機において、生産機数減少の影響がありました。

また、ボーイング社向け787型機において、累計生産機数増加にともなう習熟効果発揮を前提とした契約価格漸減分に見合うコスト削減が、目標に対して未達成となったことも影響しています。

続いて、商船事業の悪化です。既受注船におけるコスト未達にともなう受注工事損失引当金の追加計上や、一部案件における不具合対応に係る費用などを織り込みました。

加えて、開発途上にあるMRJ関連費用の増加です。

そのほかのセグメントについては、全社的な為替影響や、機械・設備システムで世界経済減速にともなう製鉄機械やコンプレッサ等の減収による悪化が見られたものの、全体として大きな変化はないと考えています。

先行きのリスクを一定程度織り込んだ結果、2016年度上期は低い営業利益率となりましたが、2016年度下期の定常収益率は通常の水準に回復すると考えています。

第2四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'15年度末	'16-2Q末	対前年度末 増減
売上債権	12,056	10,584	△1,472
たな卸資産	13,359	14,282	+922
その他流動資産	9,881	9,184	△696
固定資産	12,735	12,473	△262
投資等	6,996	6,476	△519
資産合計	55,030	53,001	△2,028
買入債務	8,606	7,452	△1,153
前受金	7,497	7,364	△133
その他	8,401	7,578	△822
有利子負債	10,521	11,821	+1,299
純資産	20,003	18,784	△1,218
(うち自己資本)	(16,797)	(15,796)	(△1,001)
負債・純資産合計	55,030	53,001	△2,028

その他の包括利益 △547
(為替換算調整勘定、
その他有価証券評価差額金 他)

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

貸借対照表について説明します。

当社は、社内経営管理指標としてキャッシュコンバージョンサイクルを導入する等、常日頃より全社を挙げてバランスシートの効率化を進めています。

資産は、2015年度末から2,028億円減少し、5兆3,001億円となりました。売上高が減少傾向にあるにもかかわらず、たな卸資産が増加した点を課題と捉えています。

純資産は、上半期の純利益がマイナスとなったこと、配当金の支払いがあったこと、昨今の円高にともなう海外保有資産の換算差額の調整などにより、2015年度末から1,218億円減少しました。

第2四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	'15年度	'16-2Q 累計	対前年度末 増減
自己資本比率	30.5%	29.8%	△0.7pt
有利子負債残高 (単位: 億円)	10,521	11,821	+1,299
D/Eレシオ	0.53	0.63	+0.10

キャッシュ・フロー

(単位: 億円)

	'15-2Q 累計	'16-2Q 累計	増減
営業CF	△ 271	△ 1,183	△ 912
投資CF	△ 869	△ 987	△ 117
フリーCF	△ 1,140	△ 2,170	△ 1,030

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

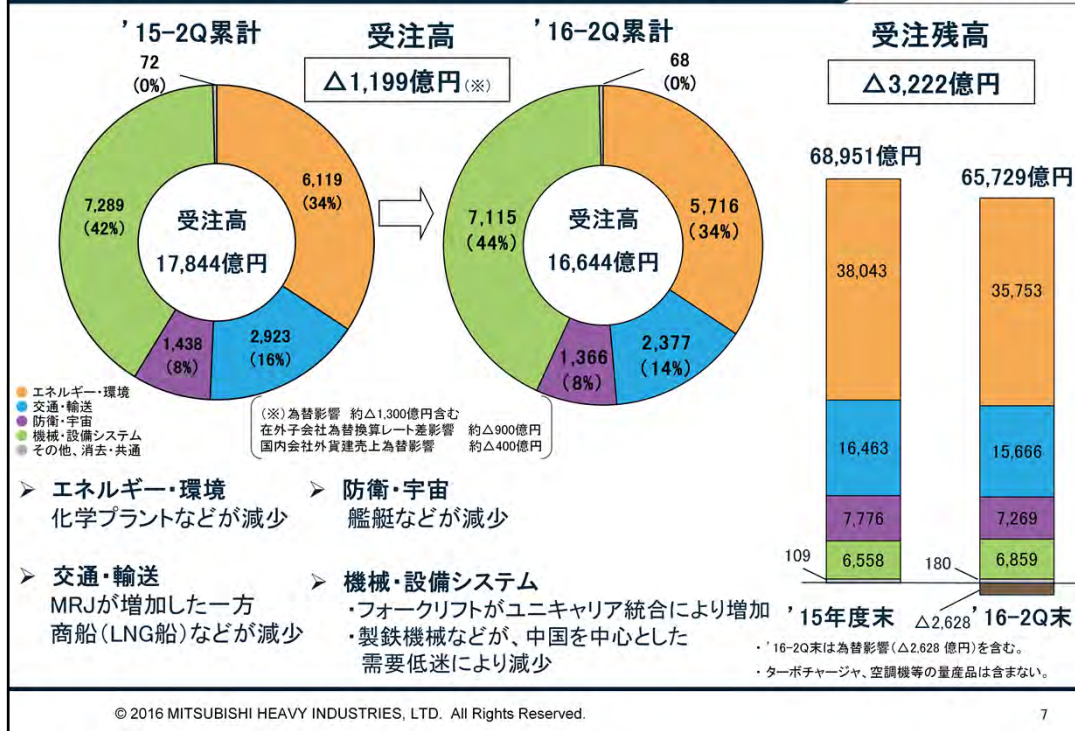
6

主要財務指標およびキャッシュフローについて説明します。

主要財務指標はご覧の通りです。

当社の最も重要な経営指標の一つであるフリーキャッシュフローは、マイナス2,170億円となりました。計画に対する営業利益の伸び悩み等により、営業キャッシュフローが前年同期から大きく悪化しました。下期において、より一層のキャッシュフロー改善活動を推進していきます。

第2四半期決算実績 セグメント別 <受注高・受注残高>

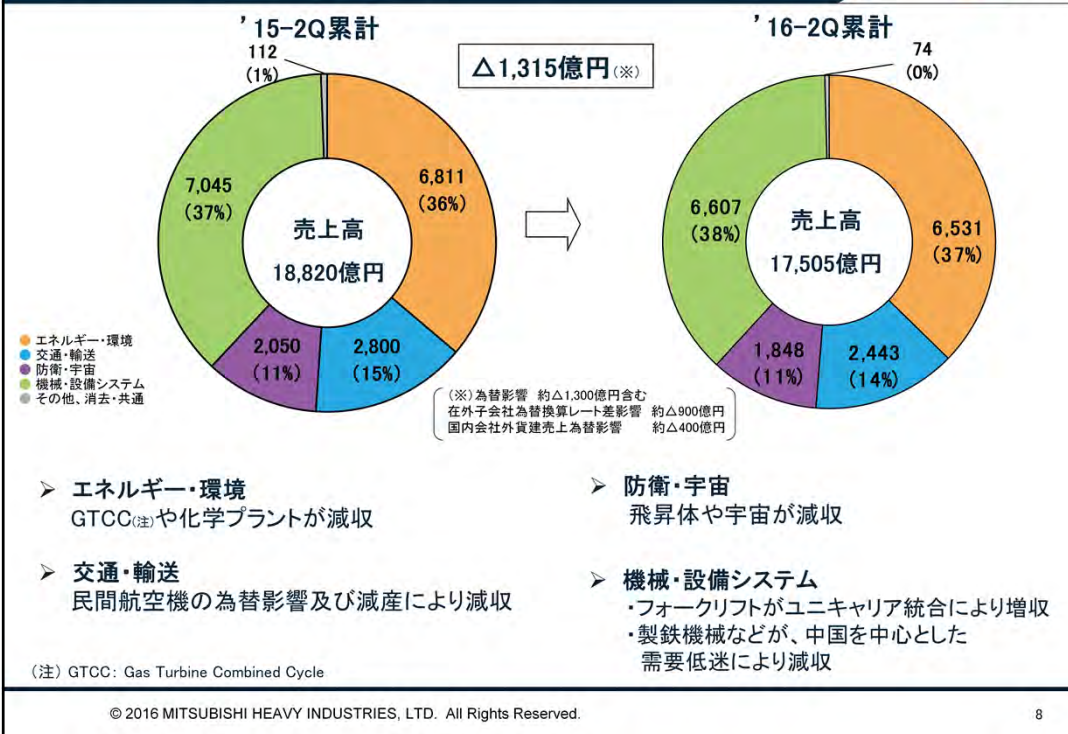
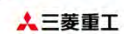


セグメント別状況について説明します。

受注高の各セグメント別構成比に、大きな変動はありません。

受注残高は、2015年度末から3,222億円減少の6兆5,729億円となりました。当期受注高(1兆6,644億円)が当期売上高(1兆7,505億円)よりも約860億円少ない中、受注残高が約3,200億円も減少した理由は、当期末時点の外貨建受注工事を実勢の為替レートで評価替したことによるものです。

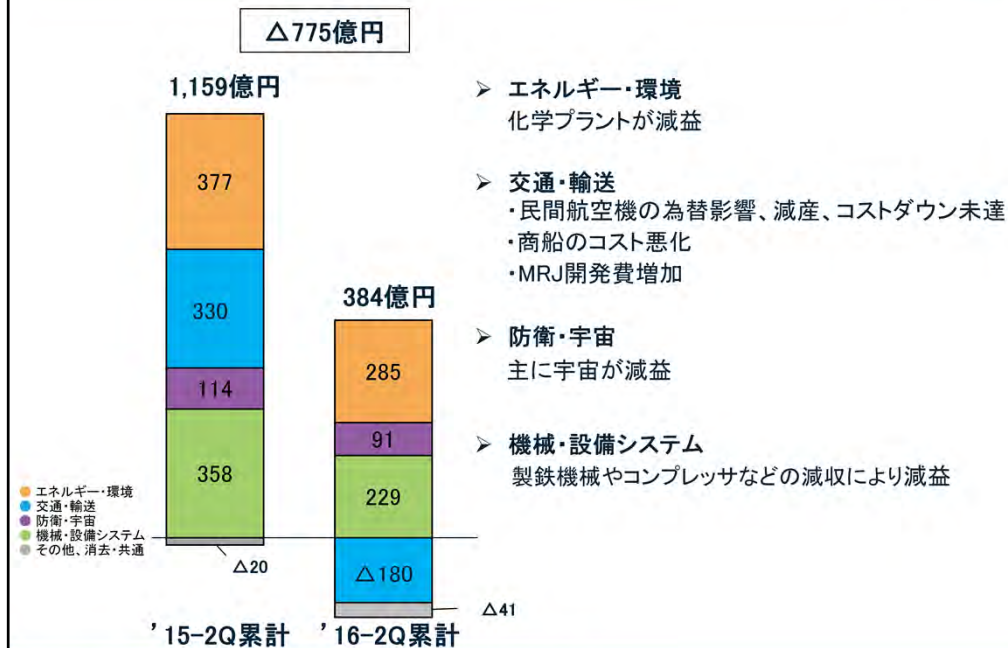
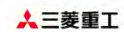
第2四半期決算実績 セグメント別 <売上高>



受注高の各セグメント別構成比も、大きな変動はありません。

エネルギー・環境において、前年同期に売上高が大きく増えた化学プラントが減収となったことや、機械・設備システムにおいて、世界経済の停滞を受けた製鉄機械などが減収となったことなどにより、全社としては前年同期から1,315億円の減収となりました。

第2四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>



© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

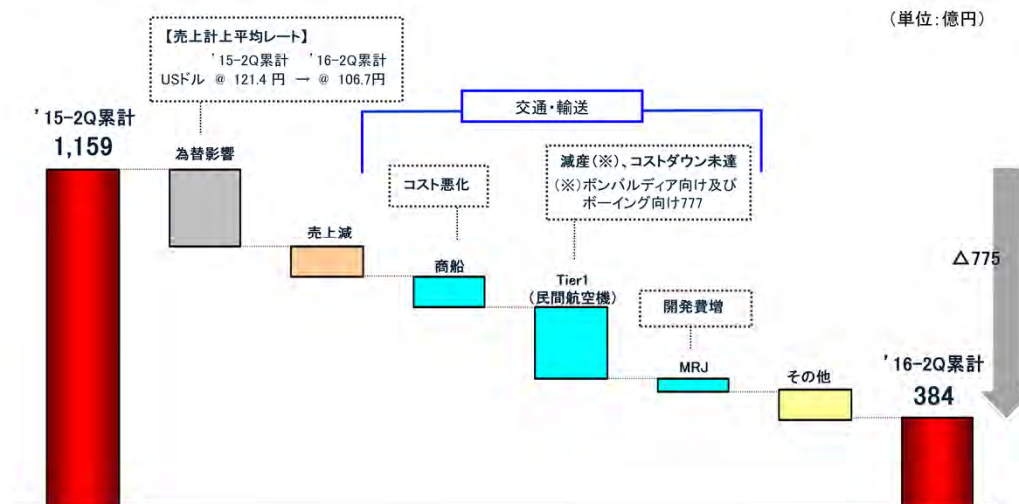
9

営業利益について説明します。

ご覧の通り、交通・輸送が前年同期から大きく減少し、マイナス180億円となりました。理由は、4ページに記載の通りです。

結果として、2016年度上期の営業利益は前年同期から大幅に悪化しましたが、ほかのセグメントについては、従来計画に対してそれほど大きく崩れてはいないと評価しています。

《営業利益増減要因》



前年同期からの営業利益の増減を示したグラフです。

Ⅱ．2016年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみにより、この業績見通しを投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2016年度業績見通し サマリー

(単位:億円)

	'15年度実績 (利益率)	'16年度		対前年度増減 (増減率)	
		今回見通し (利益率)	前回見通し (2016年7月29日)		
受注高	44,855	48,000	50,000	+3,144	(+7.0%)
売上高	40,468	40,000	43,000	△ 468	(△1.2%)
営業利益	(7.6%) 3,095	(6.0%) 2,400	3,300	△ 695	(△22.5%)
経常利益	(6.7%) 2,725	(4.5%) 1,800	2,800	△ 925	(△33.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.6%) 638	(2.5%) 1,000	1,000	+361	(+56.7%)
R O E	3.7%	5.8%	5.8%	+2.1pt	—
EBITDA	(11.9%) 4,796	(10.5%) 4,200	5,200	△ 596	(△12.4%)
フリーCF	75	1,000	1,300	+924	—
配当(1株あたり)	12円 (中間6円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)	【未確定外貨】 20億ドル (前回:18億ドル) 5億ユーロ (前回:3億ユーロ) 【前提為替レート】 1ドル = 100円 (前回:105円) 1ユーロ = 115円 (前回:115円)		

- 売上: 為替影響や売上計上の遅れ等により減収
- 営業利益: 前提為替レート変更や交通・輸送の損益悪化により減益
- ・ アセットマネジメントにより特別利益 約600億円、フリーCF 約1,000億円を織り込み

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

2016年度業績見通しについて説明します。

受注高は、下期の前提為替レート見直しを反映し、前回公表値から2,000億円下方修正した4兆8,000億円としました。

売上高は、受注高と同じく下期の前提為替レート見直しを反映したことに加え、3ページに記載の通り、受注済工事の売上計上(工事進捗)がやや遅れ気味である状況を織り込み、前回公表値から3,000億円下方修正した4兆円としました。

営業利益は、前回公表値から900億円下方修正した2,400億円としました。2016年度上期の粗利益率は約18%ですが、3,000億円の売上下方修正により約600億円の粗利益減少となること等を加味したものです。

経常利益は、前回公表値から1,000億円下方修正した1,800億円としました。2016年度上期の営業外損益 約マイナス400億円には、特殊要因である三菱自動車工業(株)の持分法投資損失分(マイナス188億円)が含まれていますので、下期はその影響を除外したマイナス200億円を見込み、合計でマイナス600億円の営業外損益を織り込んだものです。

また、本日10月31日に公表した通り、現在全社的に推進中であるアセットマネジメントの一環として、当社100%出資の菱重ファシリティ&プロパティーズ(株)の子会社であ

る菱重プロパティーズ(株)の株式の70%を西日本旅客鉄道(株)に譲渡します。これにより、約600億円の特別利益、約1,000億円のフリーキャッシュフローが発生する見込みです。以上をふまえ、当期純利益は前回公表値の1,000億円に据え置きました。

ROE、EBITDAはご覧の通りです。

フリーキャッシュフローは、菱重プロパティーズ(株)の株式譲渡による約1,000億円のフリーキャッシュフローを織り込み、前回公表値の1,300億円から1,000億円に見直しました。

なお、上記の業績見通しには、米国サザンカリフォルニアエジソン社サンオノフレ原子力発電所 (SONGS: San Onofre Nuclear Generating Station) の取替用蒸気発生器供給契約に係る仲裁の影響は含まれていません。

年間配当予想は、前回公表値から変更ありません。なお、本日10月31日の当社取締役会にて、中間配当6円を決議しました。

2016年度業績見直し セグメント別内訳

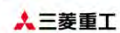


(単位: 億円)

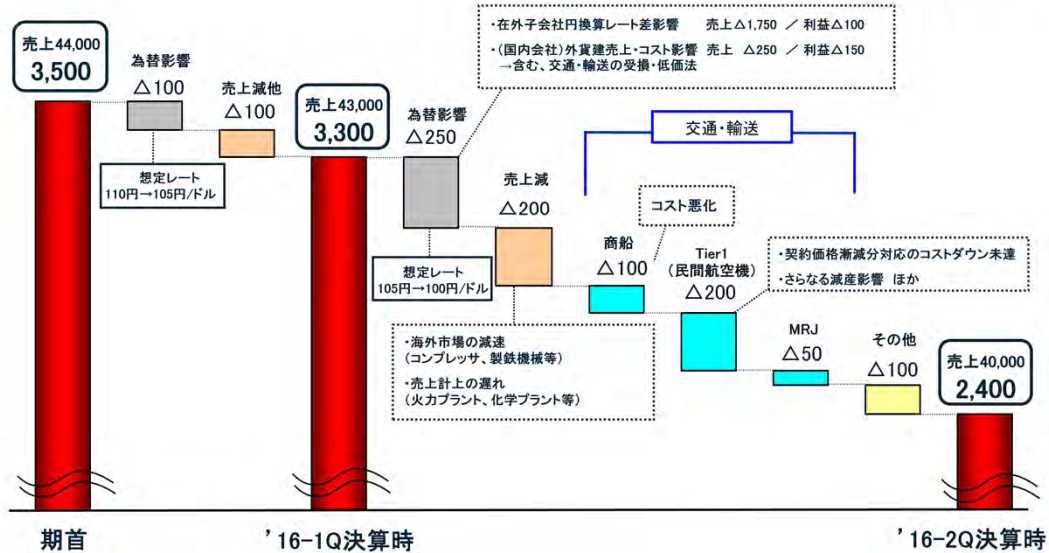
	受 注 高				売 上 高				営業利益			
	'15年度 実績	'16年度		対前年度 増減	'15年度 実績	'16年度		対前年度 増減	'15年度 実績	'16年度		対前年度 増減
		今回 見直し	前回見直し (2016年7月29日)			今回 見直し	前回見直し (2016年7月29日)			今回 見直し	前回見直し (2016年7月29日)	
エネルギー・環境	20,050	21,000	21,000	+949	15,427	15,500	16,500	+72	1,546	1,600	1,850	+53
交通・輸送	6,071	6,000	7,000	△ 71	5,485	5,000	5,500	△ 485	545	△ 250	200	△ 795
防衛・宇宙	4,477	4,000	4,000	△ 477	4,850	4,500	4,000	△ 350	257	280	260	+22
機械・設備システム	13,925	16,000	17,000	+2,074	14,323	14,500	16,500	+176	800	850	1,050	+49
その他	1,628	2,000	2,000	+371	1,773	1,600	1,600	△ 173	126	120	140	△ 6
消去または共通	△ 1,298	△ 1,000	△ 1,000	+298	△ 1,392	△ 1,100	△ 1,100	+292	△ 181	△ 200	△ 200	△ 18
合計	44,855	48,000	50,000	+3,144	40,468	40,000	43,000	△ 468	3,095	2,400	3,300	△ 695

- 交通・輸送を中心に見直し（詳細は14ページ）
- エネルギー・環境、防衛・宇宙、機械・設備システムは、前年度並みの収益力を維持

2016年度業績見通し 期首からの営業利益の推移



(単位: 億円)



© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

14

期首からの2016年度営業利益見直し修正の推移を、要因別に示したグラフです。

1点目は、主に交通・輸送セグメントで発生する為替影響です。対ドル前提為替レートを、期首の110円から100円に見直したことが、350億円(*)の減益要因です。(*上記グラフの灰色部分の合計)

2点目は、全社的な売上計上遅れを、300億円(*)の減益要因として織込みました。(*上記グラフのオレンジ色部分の合計)

3点目は、船舶(商船)やTier1(民間航空機)、MRJといった交通・輸送セグメントの特殊要因を、350億円(*)の減益要因として反映しました。(*上記グラフの青色部分の合計)

4点目に、その他として100億円の減益を織り込み、2,400億円の営業利益見通しとしました。

3ページ及び12ページに記載の通り、2016年度下期に発生し得るリスクを2016年度上期(第2四半期累計)業績に一定程度織り込み済みです。課題はいろいろとあるものの、必要な対策を着実に実行できれば、現状の業績見通しは達成可能と考えています。

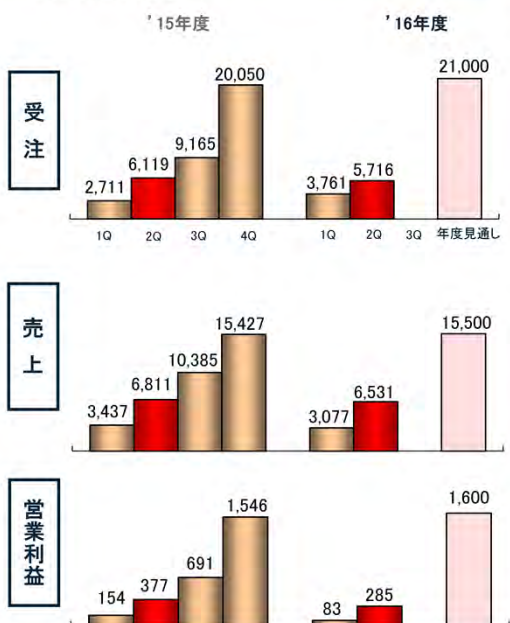
以上で、2016年度第2四半期決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第2四半期決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 △403億円の減少

主に化学プラントが減少したことにより、前年同期を下回った。

【ガスタービン受注台数】

'15-2Q累計 : 8台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	1	5	1	-	7
中小型	-	-	-	1	1
合計	1	5	1	1	8

'16-2Q累計 : 9台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	4	2	-	2	8
中小型	-	1	-	-	1
合計	4	3	0	2	9

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'15-2Q末	37	30	67
'15年度末	42	35	77
'16-2Q末	38	30	68

売上 : 対前年同期 △280億円の減収

GTCC(注)や化学プラント等の減収により、前年同期を下回った。

損益 : 対前年同期 △91億円の減益

化学プラントの減益などにより、前年同期を下回った。

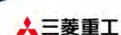
年度見通し

売上 : 16,500億円から15,500億円へ修正

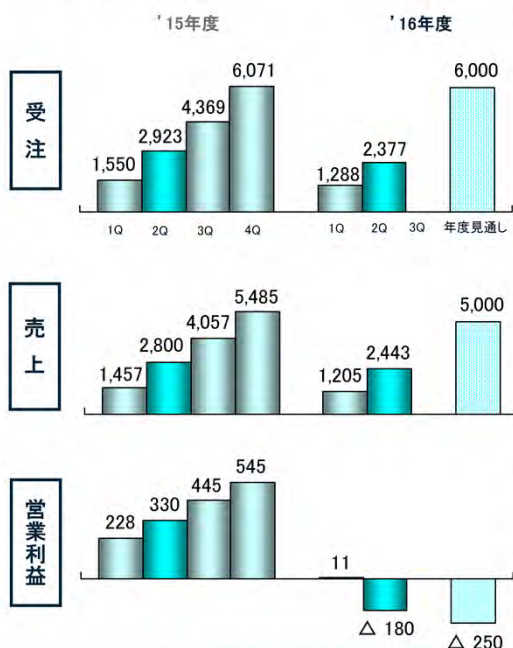
営業利益 : 1,850億円から1,600億円へ修正

(注) GTCC: Gas Turbine Combined Cycle

補足資料① 第2四半期決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 △546億円の減少

MRJが増加した一方、前年同期に複数のLNG船を受注した商船が減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【商船 受注隻数】

'15-2Q累計：6隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:5隻、4Q:5隻)

'16-2Q累計：6隻 (1Q:4隻、2Q:2隻)

【商船 契約残隻数】37隻

(LNG船 11隻、LPG船 7隻、巡視船 5隻 他)

売上：対前年同期 △357億円の減収

主に民間航空機の為替影響及び減産により、前年同期を下回った。

【B777 引渡機数】

'15-2Q累計：55機 (1Q:28機、2Q:27機、3Q:25機、4Q:27機)

'16-2Q累計：51機 (1Q:27機、2Q:24機)

【B787 引渡機数】

'15-2Q累計：63機 (1Q:32機、2Q:31機、3Q:29機、4Q:34機)

'16-2Q累計：67機 (1Q:36機、2Q:31機)

損益：対前年同期 △510億円の減益

民間航空機の為替影響・減産・コストダウン未達、商船のコスト悪化、MRJ開発費増加などにより前年同期を下回った。

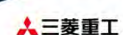
年度見通し

受注：7,000億円から6,000億円へ修正

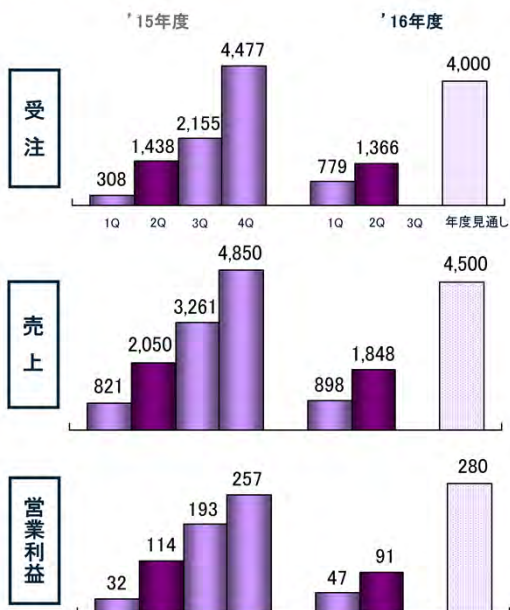
売上：5,500億円から5,000億円へ修正

営業利益：200億円から△250億円へ修正

補足資料① 第2四半期決算実績 <防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)



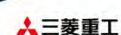
受注 : 対前年同期 △72億円の減少
艦艇などが減少し、前年同期を下回った。

売上 : 対前年同期 △201億円の減収
飛昇体や宇宙が減収となり、前年同期を下回った。

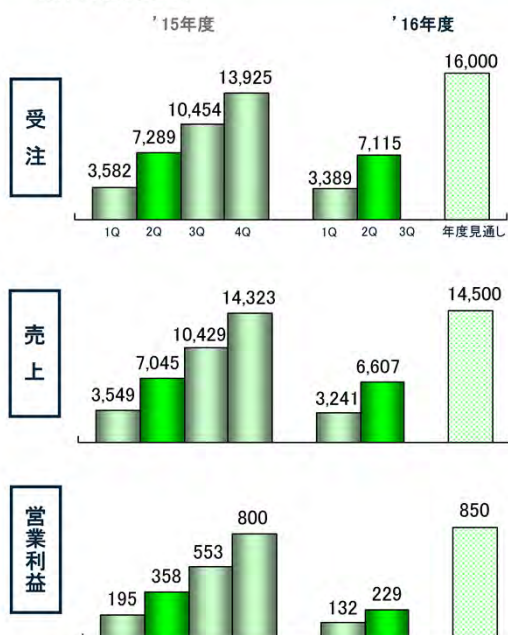
損益 : 対前年同期 △23億円の減益
主に宇宙が減益となり、前年同期を下回った。

年度見通し
売上 : 4,000億円から4,500億円へ修正
営業利益 : 260億円から280億円へ修正

補足資料① 第2四半期決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 △173億円の減少

売上 : 対前年同期 △438億円の減収

ユニキャリア側を統合したフォークリフトが増収となった一方、製鉄機械などが中国を中心とした需要低迷により減収となり、前年同期を下回った。

損益 : 対前年同期 △129億円の減益

製鉄機械やコンプレッサなどの減収に伴い、前年同期を下回った。

年度見通し

受注 : 17,000億円から16,000億円へ修正

売上 : 16,500億円から14,500億円へ修正

営業利益 : 1,050億円から850億円へ修正

(※)【報告セグメントの変更について】

2015年度第3四半期より、一部の事業のセグメントを「その他」から「機械・設備システム」に変更したことに伴い、2015年度第2四半期累計の実績を、変更後のセグメントに合わせて組み替え。

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'15-2Q累計	'16-2Q累計	'16年度 見通し
研究開発費	583	660	1,500
減価償却費	755	798	1,700
設備投資	758	937	2,000

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'15-2Q累計	'16-2Q累計
販管費	2,708	2,819

3. 為替レート

	'15-2Q累計	'16-2Q累計
USドル(円/USドル)	121.4	106.7
ユーロ(円/ユーロ)	133.2	117.4

4. 海外地域別売上高

(単位: 億円)

	'15-2Q累計	'16-2Q累計
アジア	3,294 (18%)	2,880 (16%)
北米	3,810 (20%)	3,191 (19%)
欧州	1,862 (10%)	2,049 (12%)
中南米	721 (4%)	423 (2%)
中東	454 (2%)	559 (3%)
アフリカ	466 (2%)	565 (3%)
オセアニア	132 (1%)	153 (1%)
合計	10,743 (57%)	9,824 (56%)

5. 所在地別セグメント情報

(単位: 億円)

		'15-2Q累計	'16-2Q累計
日本	売上高	13,959	13,349
	営業損益	973	288
北米	売上高	2,537	2,174
	営業損益	30	28
アジア	売上高	1,913	1,709
	営業損益	151	148
欧州	売上高	1,846	1,813
	営業損益	△ 7	△ 77
その他	売上高	504	432
	営業損益	12	△ 3
消去または共通	売上高	△ 1,940	△ 1,974
	営業損益	-	-
合計	売上高	18,820	17,505
	営業損益	1,159	384



この星に、たしかな未来を

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.